

■ 目次	サロンコンサートvol.15 / 秋の研修旅行	1
	会員随想	2
	会員の研究ノート	3
	第18回研究発表会 / 安田小学校鼓笛隊による演奏企画 / 友の会伝言板 / 編集後記	4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)  
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

博物館HP [http://www.city.agano.niigata.jp/togo\\_museum/index.html](http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html) E-mail [y.togo@oregano.ocn.ne.jp](mailto:y.togo@oregano.ocn.ne.jp)

### サロンコンサートvol.15

## 木管五重奏の愉しみ

5人の木管楽器奏者によるアンサンブル・コンサート。  
映画「サウンド・オブ・ミュージック」の音楽をはじめ、  
親しみやすい旋律が秋の日本家屋に響きます。

**日 時** 平成29年 10月15日(日) 14:00~15:00 (開場13:30)

**会 場** 市立吉田東伍記念博物館 附属 吉田東伍生家 (旧旗野邸) 大広間

**出 演** フルート：本間 優子  
オーボエ：田中 理恵  
クラリネット：山下 功  
ファゴット：山下 順子  
ホルン：越野 俊彦

**曲 目** 映画「サウンド・オブ・ミュージック」セレクション  
(R. ロジャース)  
映画「魔女の宅急便」より (久石譲)  
日本の童謡メドレー

**入 場 料** 博物館入館料 (一般300円 / 小中学生150円)  
申込不要 (直接会場にお越しください)

### 秋の研修旅行

恒例の秋の研修旅行は、五泉市(村松地区)の歴史散歩と  
新蕎麦を賞味するバス巡見です。ふるってご参加ください。

## 村松の歴史散歩と新蕎麦の味わい

**期 日** 平成29年 11月14日(火)

**集合場所・時間** 新津駅西口集合 8:30、吉田東伍記念博物館集合 9:00

**行程(予定)** 8:30 新津駅西口出発 → 9:00 吉田東伍記念博物館出発  
→ 9:30~10:30 村松城跡・五泉市村松郷土資料館 → 10:45~12:10 慈光寺  
→ 12:30~14:00 そば処「阿弥陀瀬」 → 14:30 吉田東伍記念博物館着 → 15:00 新津駅西口着

**定 員** 25人 (先着順)

**参加費** 5,500円 (入館料・昼食代・バス代・保険料等) (非会員6,500円)

**申し込み** 11月7日(火)までに博物館へ電話  
※申し込み時に集合場所と生年月日 (保険加入のため) をお知らせください

## 楽しい研修旅行でした

吉田東伍記念博物館友の会会員 武中秋 一

昨年、「友の会」の会員に加えて頂きました新潟市在住の武中秋一と申します。まず自己紹介を。在新潟11年、昭和21年生れです。三年前に退職し、「毎日が日曜日」生活に突入しました。昔から地名・歴史に興味があり、数年前に記念博物館を初めて訪問し、東伍博士の業績を知り感銘を受けました。更に「友の会」の存在を知り、昨年入会させて頂いた次第です。今般、6月16日の「関川村史跡めぐり」に参加しました。

大変有意義かつ楽しい一日でした。まず第一に感銘を受けたのは盛り沢山の訪問先。中でも午前中の史跡は、普段訪れることの少ない所が殆どでした。第二に講師の小林弘様の豊富な経験に基づく、通り一遍でない説明・解説です。特に「土沢の傍示石」にまつわるお話は、小生が以前から感じていた、史跡の意味付けの確定には、様々の見方があり得る事を、一旦権威者と称される人、機関の意見が主流となるとその変更は、容易ない事。一方で権威者ではないマスメディアの意見が十分な検証もなく流布する現実が存在する現状を問題と感じています。一例として、テレビの一部の歴史番組のように「新発見」と称する物・事象を一人の学者・識者の見解のみに拠り、あたかも定説であるかの如く流布されてしまう事に、真実に迫る難しさを感じています。それは、光兎神社の歴史についても通ずるものがあるのかと。なお、乗車時に配布頂いたレジメなどは、ツアーの参考資料としてのみでは勿体ない内容豊富で帰宅後も拝読させて頂いています。

昼食は、渡辺分家宅、東桂苑へ移動。豪華なお弁当を頂きました。同邸内を見学の後、本家の渡辺邸へ。平成の大改

修後の邸内と庭、付属蔵等を隙間なく見学する事が出来ました。邸内各所に豪農の館としての特徴が見られました。代表的なものとして、特例に空けて頂いた門をくぐった先の広大な土門と、その造りに始まり、石置屋根等豪雪地帯ならではの造りを実感出来ました。渡辺邸の後は、「せきかわ歴史とみちの館」を見学。関川村近傍の歴史を出土品等で詳細に展示、かつ館長さんの丁寧な説明もあり、午前中の石碑めぐりの、良い復習となりました。

さて、今回の最大の収穫は、十五名の皆様と御一緒出来た事です。講師の小林様や、当日の御手配を頂いた田中様には心よりお礼申し上げます。更に思いがけず、県立文書館でボランティアを一緒させて頂いている信田様にお目にかかれました。その他の皆様とお近づきになれた事、本当に幸せに存じます。

皆様、歴史・地域について造詣の深い方々と和気藹々の雰囲気の中でお知り合いとなれ、今後の企画にも、時間の都合がつく限り、参加したく存じます。

最後に、纏りのない雑文を読んで下さった事と、楽しい企画に参加出来た事に心より感謝し、筆を置かせて頂きます。



# 阿賀野市発久遺跡出土の異形須恵器について ～阿賀野市の文化財を歩く～

吉田東伍記念博物館友の会会員 小林 弘



今回は、阿賀野市の「水原ふるさと農業歴史資料館」に常設展示されている発久遺跡出土の異形須恵器について考察してみたい。

発久遺跡は、新潟県阿賀野市大字発久字山伏塚769番地ほかに所在する。現況は、平坦で広大な水田地帯が広がっている。今回題材とした異形須恵器については世界陶磁全集に、発久遺跡出土の「四足瓶」として吉岡康暢氏により、写真や文で次のように紹介されている。「高さ24.5cm、口径12.4cm、左右48.0cm。中央に口頸部を据え、長い球胴の両端を砲丸形に絞って、先端に円形の突起を作り出し、ここから四方に鱗状の突帯が伸びる器体に、獣足を四脚取りつけてある。葉壺に獣足を付した個体が稀に存することは周知されているが、足指の表現を省略した異形の横瓶（よこべ）は類例がなく、何を形象したものかも明らかでない。横瓶は、北陸では奈良・平安時代を通して製作された特徴的な器種であった。越後北部の須恵器窯の製品は、北陸の基本型がややデフォルメされる傾向が認められるので、こうした変種を生み出したことも、ある程度納得できるものがある。」（吉岡1974年）と述べている。

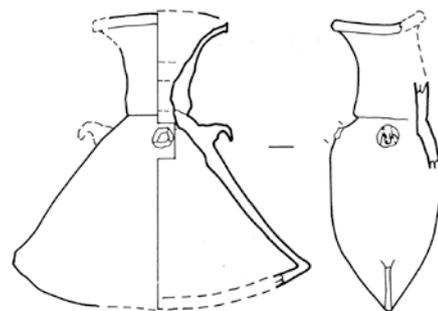
年代観は9世紀のものだという。両肩の補修痕とみられる場所には角のような突起物がついていたという。それらを引用する形で、ネット上や、発久遺跡の発掘調査報告書、笹神村史に紹介されている。問題は、この須恵器が、何をモデルにして工人が製作したのか不明の点である。筆者は革袋形須恵器をモデルにした須恵器と考えてみたい。革袋とは大陸の騎馬民族が使用した革袋製の水筒を模したものと

考えられている。全国の革袋形須恵器の集成を行ったものは、牛嶋（2010年）であり、須恵器系は秋田県鳥海山を北限として、九州まで分布しているという。革袋形須恵器は古墳での出土事例が多く、集落跡でも出土している。その多くは葬送儀礼に使用された可能性が高い。革袋形須恵器と共通する点は、胴部両端が窄まる点、その両端に環状の提げ手があり革袋製の水筒を吊り下げ時のものを模したのか、革袋須恵器にも良くみられる点。両端付近に革の皺を模したと考えられる突帯がある事。以前、頸部左右両方の補修痕に角状の突起があったという。革袋形須恵器の類例で同様の角状の突起物がある例があり、その例として福岡県朝倉郡筑前町乃木松1号墳の出土事例がある。

相違点としては、獣足が底部に取り付けられている点で、他の革袋形須恵器は足が付けられるものは皆無で不安定な形態のままという点があげられる。本資料の場合、胴部両端に環状の把手が付けられているものの重量のあるものを提げて吊り下げるといふ事を仮定した場合貧弱である。吊り下げるといふより置いて使用する点に重点がおかれていたように考えられる。仮に革袋形須恵器としても県内で出土事例が無く、9世紀代の集落跡からの出土は希少である。

## 【引用参考文献】

- 吉岡康暢（1974年）『世界陶磁全集』2 日本古代、小学館  
 牛嶋英俊（2010年）「革袋形土器研究史小史－附・革袋形土器集成－」『同志社大学考古学研究会50周年記念論集』同志社大学考古学研究会  
 発久（ほっきゅう）遺跡の四足瓶  
 (<http://www.agano.net/rekishi/yotsuashi/yotsuashi.html>)



乃木松1号墳出土（三輪町報3）

▲牛嶋（2010年）

# 第18回研究発表会

友の会会員が日頃の研究成果を発表する恒例行事「研究発表会」を下記のとおり開催します。是非ご参加下さい。

**日 時** 平成29年 12月9日(土) 16:00~17:00

**発表テーマ** 「齢七十余、転居三十五回、海外在住二十五年の行く末は？」

**発表者** 武中秋一さん(友の会会員)

**会 場** 市立吉田東伍記念博物館

**申し込み** 友の会会員は参加費無料(会員以外は、博物館入館料が必要)  
資料・会場準備の都合上、前日までに下記へお申し込み下さい。

## 『音』よ響け！ 過去、現在、そして未来へ ～安田小学校鼓笛隊(5・6年生)による演奏企画～

赤坂小学校・山手小学校が閉校し、平成29年4月より安田小学校に統合しました。校名が「保田小学校」から「安田小学校」になり、児童数445名の大規模校として新たな歩みが始まりました。本演奏企画は、地域との交流を図り、地域とともに歩む心情を高めることを目的として、博物館を会場に5・6年生の鼓笛隊が小学唱歌「港」や校歌を演奏します。入場無料です。どうぞご覧ください。

**日 時** 平成29年 10月25日(水)

13:30 小学校発 ~ 13:50 演奏開始(15分間) ~ 14:30 小学校着

**会 場** 市立吉田東伍記念博物館 正面駐車場

※雨天の場合は吉田東伍生家

主催/阿賀野市立安田小学校

協力/市立吉田東伍記念博物館

### 友の会伝言板 **事務局より**

①10月14日(土)朝6時から安田商工会女性部の皆様が吉田東伍生家の草取り・清掃作業を行います。翌日のサロンコンサート開催にあわせてのボランティア活動です。作業に協力していただける友の会会員を募集します。参加できる方は草取り用の鎌を持参のうえ直接博物館へお越しください。

②**今年度会費未納の方へ ~納入のお願い~**

会費(年額) 一般:2,000円 学生(大学生以下):500円

家族会員:3,000円 賛助会員:1口10,000円

納入方法/博物館受付で直接納入するか、振込用紙をご利用下さい。

本通信と行き違いで既に会費を納入された場合はご容赦願います。

③**新規会員を募集しています!**

ご近所、お友だち、ご家族に入会のお声がけをお願いします。

④**原稿を募集しています!**

『友の会通信』の「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

### 編集後記

最近の友の会の運営委員会の話題は、今年度の博物館開館20周年、来年度の友の会設立20周年をどのように盛り上げていこうかということです。間もなく全貌をお知らせできる段階まで議論が進んできました。「館」も「会」もようやく「成人式」。和やかな会議風景は今も昔も全く変わりません。この雰囲気が続けていくことこそが、会の未来への明るい展望を開く活力につながるのではないのでしょうか。秋からの友の会活動にも是非ご参加ください。

(事務局T)